

地域を豊かにする社会活動

— 健やかな関係を育む伝承活動 —

豊前市三毛門豊寿会会員 猫田 信廣

はじめに、私は三毛門豊寿会の会員であり、三毛門南瓜保存会の会長でもあります。

三毛門豊寿会で伝承活動として活動しているのは、三毛門小学校の六年生と「稲作体験」、一年生と「子どもの遊び(紙飛行機、竹とんぼ、バッチン、お手玉・・・)」、そして、三年生で「三毛門カボチャづくり」の体験活動を行っています。中でも、この「三毛門カボチャづくり」は、20年以上続いています。それは、470年近く護り続けた三毛門カボチャの伝承活動の一環でもあります。本日は、この三年生との交流を年6回行っていますので、その様子を報告したいと思います。

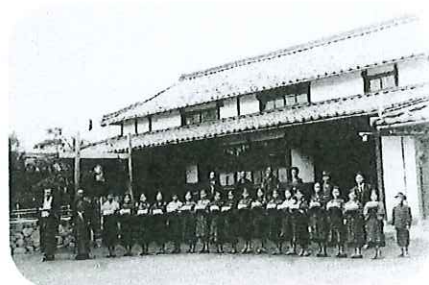
1、三毛門カボチャとは、

(1) 日本最古の渡来種である

- ・ 今から、470年程前(天文年間)に、ポルトガル人が南蛮船で来航し、豊後の国主大友宗麟に、カンボジア産のカボチャの種を献上する。
- ・ 約20年後に三毛門村の緒方鎮盛武将が譲り受け、三毛門村に広めた。

(2) 昭和天皇ご即位大嘗祭に献上している

- ・ 福岡県より、海、岡、山の幸16種の幸が献上され、その中に三毛門カボチャが栄光をあびる。
- ・ 黄褐色の白粉のついたカボチャ15個を献上する。



(3) 飢えを凌いだ救荒代用食品である

- ・ 江戸時代の享保7年と17年に大飢饉(早魃、ウンカなど)に飢えをしのいだ。
- ・ 明治時代中期、田川炭鉱地方に大量の供給斡旋している。
- ・ 終戦後の食糧難には、多くの村民や近辺の人々が、飢えをしのいだ。

(4) 歌や踊りの文化を^{かな}奏でる

- ・ 昭和21年三毛門小学校教諭3名で、作詞、作曲、踊り「三毛門カボチャ音頭」を創作し、運動会や、盆踊りで踊る。
- ・ 途中途絶えたが現在も小学校の運動会、町民体育祭、各地の盆踊りに復活している。

(5) 平成30年7月 豊前市「文化財(天然記念物)」に指定される。

2、次世代への伝承活動（三毛門小学校三年生とのかかわり）

- ・各行事の開会行事、閉会行事の進行は児童が行う。また、閉会行事には、何人かにその日の感想を発表する場面がある。
- ・これは、令和3年度の取組みである。

(1) 紙芝居で三毛門カボチャの歴史を知る・種まきをする。(5月6日)

- ・コロナの関係で三密を考慮し、クラスを2つに分け、一方は、紙芝居で歴史を、他方は、校庭で種蒔き、終わったら交代するという配慮をする。
- ・語りは、豊前市語り部の会から派遣する。



紙しばいで三毛門カボ
チャのことがよくわかり
ました

(2) 小ポットの苗を中ポットに植替えをする。(5月18日)

植えかえの時小さい
のにほんとに大きくな
るか心配になりました



(3) 定植をする。(天皇献上カボチャ耕作畑)(6月2日)

- ・報道関係(NHKテ、各新聞記者、市報、JAなど)取材。



(4) 敷藁をする。(6月15日)

土が見えないように
がんばりました
きんとうになるよう
気をつけました



(5) 収穫をする。(9月15日)

・報道関係(NHKテ、各新聞記者、市報、JAなど)が取材。

三毛門カボチャが私の
顔位になったことです
カボチャは大きく、重くて
びっくりしました
いっぱい取れてうれし
かったです



(6) 三毛門カボチャを感謝する会(12月9日)

何回も私たちに教えに
来てくれて、とてもうれし
かったです
これからも三毛門カボチャを
よろしくおねがいします



おわりに、地域を豊かにする社会活動の中で、伝承活動について述べてきました。

現在、ICT環境が急激に進んでいます。進めてほしいと思います。が反面、今後、30年、50年先の子ども達は、どのような大人になるのだろうか。ロボット化され、心が砂漠化され、人としての繋がりが、親、兄弟、地域・・・等の繋がりが今まで以上に疎遠になるように思えてなりません。今こそ老人クラブが主体となって、各地域の伝承するものを見つけ、次世代の大人の幸せを願って、取り組んでも遅くはないと思っています。

宇野垂水老人クラブ活動報告

宇野垂水老人クラブ（えびす会）会長 小川俊二

はじめに

私たちの老人クラブは上毛町老人クラブ連合会に所属する 24 単位クラブの一つで宇野垂水老人クラブ（えびす会）です。

今年度の会員数は男性 13 人、女性 16 人の 29 人が所属しています。

平均年齢は全体では 75.2 歳、男性：75.0 歳、女性：75.3 歳です。

当クラブの平均年齢は他のクラブと比べて低いのではないかと思います。

と言うのもここ 3 年に 12 名が入会しました。亡くなられた方や退会された方は 4 名ですので 8 名が増えたこととなります。若返りもしました。

他のクラブからは若い人が入らない、役員をしてくれる人がいないと休会や解散を余儀なくされていると聞きます。

私は 66 歳の時に老人クラブに入会しました。その時は会社勤めをしていました。入るキッカケは囲碁を趣味としていまして京築老人クラブ連合会の囲碁大会があり、老人クラブの会員でなければ参加できないというので、誘われて入会しました。それで囲碁大会に参加できるようになりました。

囲碁、グラウンドゴルフ、ペタンクとか同じような動機で趣味を楽しみたい理由で入会した人の話も聞きます。

入会してからはできる限り会社の有給休暇を取って他の行事にも参加しました。

私は当クラブの会長に 2 年前に就任させられました。会長役は荷が重いと思いましたが、誰かが務めなければクラブが存続できないので引き受けました。

就任してから新型コロナ感染の影響を受けて十分な活動が出来ませんでした。が、できる範囲で活動をしてきました。

当クラブの活動状況

当クラブの活動は町老連の事業計画に沿って事業を進めています。

事前に役員会を開催し、月例会を年に6回実施しています。

町老連の行事ではクリーン作戦（写真1）、年各2回開催するグラウンドゴルフ大会とペタンク大会です。それにグラウンドゴルフとペタンクの練習日がグラウンドゴルフで2日/週、ペタンクは5日/週で町老連がグラウンドを確保しています。当クラブからの参加者はグラウンドゴルフでは2人、ペタンクでは7人がほとんど欠さずに参加しています。これにも他のクラブに比べ当クラブから多くの人参加しています。

運動は健康を保持するために大切だと思います。若い時から始めないと歳をとってからではなかなか始めるのがおっくうに思ってしまうのではないのでしょうか。

独自の月例会は新入会員の歓迎を兼ねた総会（写真2）、秋には日帰りのバス旅行（写真3）、年明けには初詣を行った後の新年会、あとの3回は室内の室内用ペタンク、ボッチャ、体力測定、ビンゴゲーム、過去には麻雀、カードゲーム、カラオケをしたりしています。毎回お弁当をとって缶ビール等のお酒も飲んでカラオケをしたり踊ったりして親交を深めています。

老人クラブの在り方及び今後の取り組み

私の考えは地域の人との交流を持って若い年齢の時から会に所属してみんなで運動をしたり旅行をしたり懇親会で親交を深めることが大切と思っています。

それを理解されて入会者が増えているのだと思います。

今後は60歳代の若い人に声掛けをして会員を増やしたいと思っています。

老人クラブで自分のやりたいこと、本人の為になること、本人が楽しめることを行事に取り入れて、仕事を持っている人でも参加できる範囲で参加してもらえればよいと思います。

これは私の希望ですが、自分の弔辞を作ってもらおうとか、いろんな経験やこれからの夢をスピーチしてもらいたいと考えています。

写真1
クリーン作戦



写真2
総会



写真3
日帰り旅行

